

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

平成 26 年 4 月 22 日（火）に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要を示します。申すまでもなく、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。したがって、調査結果は、全国の状況を参考にしながら、本市の教育施策の成果と課題を把握するための一つの指標と考えています。また、学習や生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導方法の充実・改善、児童生徒一人一人の学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいります。

◎川崎市の教科別調査結果

1 教科に関する調査の平均正答率

		小学校調査				中学校調査			
		国 語		算 数		国 語		数 学	
		A	B	A	B	A	B	A	B
平成26年度 平均正答率 (公立)	川崎市	73.2%	57.6%	79.1%	60.9%	80.6%	52.6%	67.9%	61.5%
	全 国	72.9%	55.5%	78.1%	58.2%	79.4%	51.0%	67.4%	59.8%

* A問題：主として「知識」に関する問題、B問題：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市においては、「上記 1」の 8 項目（各教科 A、B 問題）のいずれの平均正答率も全国に対して ± 5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

◎各教科の概要（◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題のある点）

【小学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題、B問題ともに、すべての領域等において上回っている。特に、A問題の「読むこと」の領域は、全国の結果を 3.7 ポイント上回っている。

話すこと・聞くこと

◆立場を明確にして、質問や意見を述べること

書くこと

◇仮定の表現として、適切なものを捉えること

◆分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くこと

読むこと

◇新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えること

◆詩の解釈における着眼点の違いを捉えること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと

◆故事成語の意味と使い方を理解すること

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと

【小学校 算数】

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題、B問題ともに、すべての領域において上回っている。特に、B問題の「量と測定」領域は、全国の結果を3.3ポイント上回っている。

数と計算

◇異分母の分数の加法の計算をすること

◆割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解すること

量と測定

◇二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図を関連づけることができること

◆情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述すること

図形

◇円周の長さを直径の長さを用いて求めること

◆作図に用いられる図形の約束や性質を理解すること

数量関係

◇四則の混合した式の意味について理解すること

◆示された情報を整理し、筋道立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述すること

【中学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率は、全国の結果と比較すると、A問題では、すべての領域等において上回っている。B問題では、「書くこと」「読むこと」の領域において全国の結果を上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について1.0ポイント下回っている。また、B問題の記述式の平均正答率は、全国の結果を2.4ポイント上回っている。

話すこと・聞くこと

◇必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出すこと

◆目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること

書くこと

◇心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加えること

◆資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと

読むこと

◇登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること

◆複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

◇歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと

◆文脈に即して漢字を正しく書くこと

【中学校 数学】

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の領域ごとの平均正答率は、全国の結果と比較すると、A問題、B問題ともに、すべての領域において上回っている。また、B問題の記述式の設問について、無解答率が全国より下回っており、説明する問題に取り組む生徒の割合が高い。

数と式

◇等式の性質と移項の関係を理解すること

◆予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明すること

図形

◇平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解すること

◆ n 角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n - 2)$ における $(n - 2)$ の意味を理解すること

関数

◇グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善すること

◆反比例について、グラフと表を関連付けて理解すること

資料の活用

◇樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理すること

◆度数分布表から相対度数を求めること

◎生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果より（抜粋）

○朝食を毎日食べている。	小学校	95.7%	中学校	91.6%
○自分にはよいところがあると思う。	小学校	78.4%	中学校	65.4%
○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	小学校	75.9%	中学校	66.7%
○将来の夢や目標を持っている。	小学校	85.1%	中学校	69.7%
○テレビゲームの時間が2時間以上（※）	小学校	31.8%	中学校	41.1%
○学校の授業時間以外の勉強時間。（※）				
◎2時間以上	小学校	33.1%	中学校	38.8%
◎30分以下	小学校	18.9%	中学校	17.1%
○家で自分で計画を立てて勉強している。	小学校	58.4%	中学校	45.0%
○家の人と学校での出来事について話をしている。	小学校	81.2%	中学校	70.1%
○学校に行くのは楽しいと思う。	小学校	88.8%	中学校	81.9%
○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	小学校	87.3%	中学校	84.2%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。	小学校	93.3%	中学校	92.6%
○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	小学校	63.2%	中学校	52.3%
○人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。	小学校	94.0%	中学校	94.4%
○学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。	小学校	50.4%	中学校	61.8%
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	小学校	68.6%	中学校	63.1%
○国語の授業の内容はよく分かる。	小学校	82.4%	中学校	72.1%
○算数・数学の授業の内容はよく分かる。	小学校	78.8%	中学校	69.8%

・数値には「どちらかといえば」を含む

・（※）印は「普段（月～金）1日当たりの時間」

◎今後の対応

教育委員会といたしましては、調査結果から明らかになった学習や生活の状況を踏まえ、教育施策の充実を図ってまいります。また、本年度より、全市立小中学校は調査結果報告書を各学校で作成し、保護者・地域に調査結果及び教育指導の改善等に関する情報を提供いたします。教育委員会といたしましては、各学校の全国学力・学習状況調査を活用した児童生徒の学力向上に向けた取組について、学校と保護者・地域が一体となって推進していけるよう、支援してまいります。

【担当】

川崎市総合教育センター

カリキュラムセンター

担当課長 榎原 844-3730